



ロータリーに活力を— あなたの活力を PUT LIFE INTO ROTARY— YOUR LIFE

1988～89年度 国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ロイス・アビー ● 第256地区ガバナー 樫内悌三郎
- 会長 — 杉野 奎司 ● 副会長 — 小林 英雄 ● 幹事 — 長谷川有美
- SAA — 榎本 勝、近藤 雄介 ● 例会日 — 毎週水曜日 12:30～
- 例会場 — 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局 — 三条市旭町2-5-10 TEL 35-3477 田中久美子

(FAXも同番号 午後3時以後はFAXに切り替えます)

- クラブ会報委員 — 伊藤 廣一、大谷 幸平、五十嵐昭一、松谷 昊吉、渋谷 正一、小林 正義

出席会員数 会員 72名中 50名
先々週出席率 90.28% (前年同期 96.83%)

会長挨拶 杉野会長

御挨拶を申し上げます。今日は一日うららかな春日和となりました。

今日の例会は、平成元年を迎えまして、33回目の創立記念をお祝い致したいと思います。何時も感謝しておりますが、33番目の会長は一番軽量級だと思っておりますが、皆さんの御指導と御協力には御礼を申し上げます。

人間勝手なものであと3ヶ月で会長の座をあけなければならないと思っておりますと、竹下総理と同じで、万感交々でございます。

陸上競技で例えますと愈々第4コーナーにさしかかりました。是非、有終の美を飾りたいと思っておりますのは、

①会員の増強による、会員相互の親睦。②三条資料館への社会奉仕活動。③国際奉仕の世界大会ソウルへの参加と鹿港クラブの招待。④ローターアクトの会員増強であります。皆さんの絶大な御支援をお願い申し上げます。

33回目の節目に、会員の皆様の益々の御健祥とクラブの発展を祈念いたしまして御挨拶といたします。

幹事報告

長谷川幹事

◦例会変更のお知らせ

村松RC——4月11日(火)PM6:00~ 於 ふるさと会館

◦高田東RCより 創立20周年記念式典のご案内がとどいております。

とき 5月28日(日)AM11:30~ ところ 上越平安閣

◦吉野ガバナーノミニーより

1989~1990 クラブ会長エレクト研修セミナー並びに1989~1990 地区協議会開催にあたり役員の委嘱状がとどいております。

藤田説量君、山本福七君

◦吉野ガバナーノミニーより 1989~1990 第9回RYLA研修会

(1989年8月19~20日 於 国立赤城青年の家)

• RYLA研修申込み用紙 • RYLAプログラム

ニコニコボックス ¥46,000

加藤君、高橋(清)君、小林(英)君、銅冶君、高橋(一)君、伊藤君、山浦君、平原(信)君、谷村君、捧君、滝沢君、五十嵐君、丸山君、小柳君、高森君、外山(雅)君、外山(一)君、吉井君、轡田君、広瀬君、五十嵐力君、山谷君、大谷君、佐藤(正)君、野水君、鈴木君、佐藤(信)君、渡辺(宏)君、山本(恒)君、松川君、山本(福)君、熊倉君、藤田君、斎藤君、岩井数央君……………創立記念として。

杉野君 創立33年を記念して。

長谷川君 大勢の皆さんから出席して頂き有難うございました。

金子君 創立33年の記念日、心からお喜び申し上げます。本会が益々御発展致します事を心からおいのり申し上げます。

榎本君 創立記念例会に会場設営、親睦委員会御苦勞様でした。

小林(敬)君 沢山のご参加有難うございます。創立記念の日を祝う会懇親会。

五十嵐(寿)君 今日は楽しい一日でした。

渋谷(正)君 皆様と酒が飲める事は楽しい事です。

清水君 創立33周年おめでとうございます。足手まといにならぬよう頑張りたいと思います。

堀川君 本日はようこそ当三条ロイヤルホテルにおいで下さいましてありがとうございました。

財団ボックス ¥1,000

山浦君 今日、長女の中学入学式でした。

卓話

めぐりあい

斎藤権八会員

新年にあたって宮内庁から発表された天皇陛下のお歌に



夏たけて堀のはちすの花みつ
ほとけのをしべおもう朝かな
(七月皇居にて)

万葉調のおおらかなお歌で、しかも日頃から仏の教えに深く帰依されておられたことを改めて拝察いたした次第であります。

1月8日、改元されて「平成」となったが、

内平らかに外成る「史記」

国の内外にも平和がおとづれる意とあるが、国民の願いがこめられているものと思われる。

今から1400年前日本に始めて仏教が伝来して以来御歴代も熱心に帰依された

が、特に聖徳太子は17条憲法を定め、国民が仏の教えを心の支えとして平和な暮らしが出来るよ願われた。

1. 和をもって貴しとしさからうことなきを旨とせよ
2. 篤く三宝を敬え、三宝とは仏法僧なり

当時は貴族社会での仏教の観があったが降りて鎌倉時代になると道元、親鸞、日蓮等優れた指導者が出て大乘仏教本来の花が開き、庶民の心のより処として今日に到っている。

大漢和辞典で有名な諸橋轍次先生に御縁があって、西落合のお宅にもたびたび御邪魔してお教えを受けたが年譜によれば先生は幼少にして旧村松藩士奥畑米峯先生の静修義塾で三年間漢学を修めついで新潟師範東京高等師範を卒業後文部省より中国留学を命ぜられ、帰朝後は国学院大学東京文理科大学教授となられ、漢学の権威として天皇陛下、皇太子殿下に御進講等皇室の御信任が厚かった。

昭和35年皇孫浩宮徳仁親王御誕生に際しては、その御名号、御称号の勸進役を仰せつけられその大任を果たされた。

同じ年に待望の大漢和辞典13巻が完結発刊されたことは特筆すべきことである。

先生の号の止軒について

「莊子」

人は流れにかんかみることなくして止水にかんかみ

に由来するもので人は静かにしてくと世の中のことがよく判ってくるとの意であると承った。

また人間の心得として

「孔子」

忠恕

己を尽すを忠という己を推して人に及ぼすを恕という。

相手の身になって考えること、思いやりが大事だと教えられた。

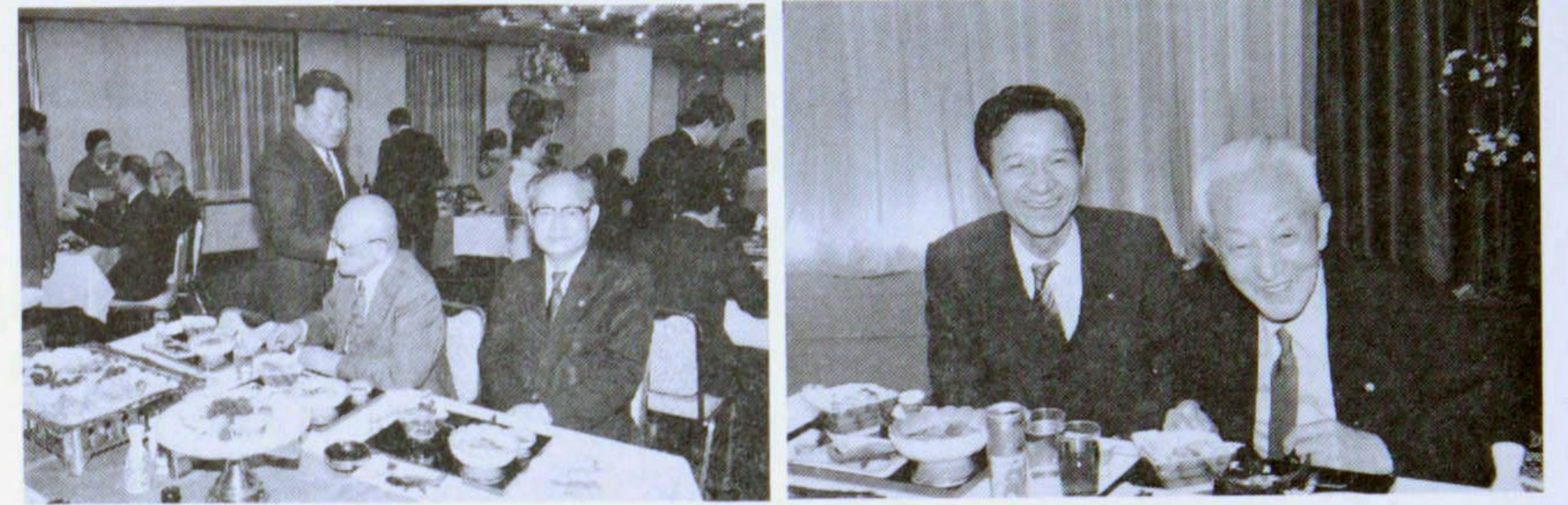
芸術院会員

亀井勝一郎先生は文芸評論家として有名だが、先生は東大で美学を修められたが、思想的な悩みから途中で学を止め、奈良の古仏に幾度か対面されているうちに「仏」の願いに思いを致されるようになった思想家である。先生の親鸞(私の宗教観)を見て心をひかれるようになった折、文芸春秋社主催の講演会が昭和32年三条の中央公民館で催うされ、講師として御出席の先生のお話を親しく聞くことが出来た。

「人生邂逅し開眼し瞑目す」

先生の語録であるが、人とめぐりあいを大切にし、心の眼を開くよう心掛けたいものである。

~~~~~ 創立記念例会スナップ ~~~~~







## キーワード 紙に書くのは科学の始まり

「日本人は規則を作りたがり、アメリカ人はマニュアルを作りたがる」と言います。規則は「……をしてはならない」と言う禁止的なものですが、マニュアル（手引書）は「……をした方がうまくゆく」と言う仕事上のコツを文章化したものです。アメリカでは昔は作業者のレベルが極めて低かったために、最低レベルの人にもわかるような絵入りのマニュアルを作ってコーチしてきたものらしい。見よう見まねで、先輩、上司の仕事を「盗んで覚えた」日本ではこうしたマニュアルが発達しなかったのは当然かもしれません。しかし、これからは仕事の科学化のため、又教育のため、習熟をスピードアップするためにマニュアルを作ったらどうでしょう。「紙に書くのは科学の始まり」で、カンとコツを文章化すると技能が技術になります。こうすれば万人に伝えられるようになり、文書により後世に伝える事もできます。




---

次週例会 4月12日 卓話「死に臨む医学」谷村憲一会員

---

次々週例会 4月19日 クラブアッセンブリー

---